

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101873		
法人名	社会福祉法人はちす福祉会		
事業所名	グループホームハーモニー		
所在地	熊本県熊本市東区秋津町秋田171-2		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成30年9月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年9月に開設したグループホームで、緑広がる田園風景に囲まれた自然豊かな場所に建てられています。特養・通所・居宅・ヘルパーが併設されており、法人は地域の福祉拠点として大きな役割を担っています。医療面では、訪問看護ステーションとの連携により、24時間体制で看護師による急変時等の対応が可能となっています。月に1度、地域のスーパーへお買い物へ行く機会を作り、社会との繋がりが維持できるように努めています。洗濯干しや洗濯物たたみ、食器洗い等、生活の中で一人お一人が役割を持って生活できるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人 はちす福祉会が運営するグループホームで、特別養護老人ホーム同じ敷地内にあるため、食事や緊急時の連携が取れており、要介護高齢者が安心して生活ができる環境です。また新しく1ユニットを加えた形で事業が展開されており、ユニット同士の情報交換を行いながらも、それぞれのユニットの特徴性を出しながらケアが展開されています。また新しい施設ですが、管理者のリーダーシップのもとに24時間看護体制や近所のスーパーへの買い物、季節行事など前向きに取り組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関・スタッフルーム・事務所内に理念を掲示し、職員全員での把握・共有している。	地域社会における「調和、協調、友愛」を基本理念としてあげ、玄関やパンフレット、重要事項説明書等にも記載がなされています。	理念は玄関やパンフレット等にも明示してありますが、職員一人一人の理解までには至っていないようです。今後は入職時の教育だけでなく、リーダーの協力も得ながら、カンファレンス等で理念の浸透に繋がるよう期待したいところです。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアを受け入れている。運営推進会議を通じて、自治会から地域の行事を紹介していただけており、可能な限り参加するように努めている。	民生委員の紹介で、近くの秋津神社で開催される例祭に参加したり、近所のスーパーに週1回程度おやつやの買い物に出かけ、近しい関係が築けています。また保育園との交流や音楽ボランティア、訪問美容やマッサージもあります。	施設の立地上、近所との濃厚な交流は困難とされますが、子ども避難の家や緊急避難所の指定の他にも、地域の方々が訪問しやすい環境づくりを期待したいところです。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々話し合い、認知症について理解を深めていただけるよう取り組んでいる。運営委員の方々からは様々な質問・ご意見があり、情報提供を行っているが、地域貢献はまだまだ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2カ月に1回会議を開催している。施設運営・入居者の状況報告等を行っている。委員からは様々な意見が出ており、施設運営・サービスの向上に活かしている。	開所してすぐは運営推進会議に参加するメンバーが固定化していましたが、参加メンバーも増え、地域行事のお誘いや認知症に対する質問などが活発に行われています。	地域とのつながりを強くするためにも、地域の消防団や商工会議所の参加も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が参加されており、様々な助言をいただいている。また、施設運営・サービス提供にあたって、疑問点があればその都度市役所へ足を運んだり、電話で相談している。	昨年新たに1ユニットが増設されており、入居者へのサービス提供の事だけでなく、職員確保に関しても熊本市と密に連絡を取っています。	グループホームにおける認知症のケアは、認知症の啓発活動や在宅介護の認知症の方の相談支援など、地域での活動も見出し始めています。今後は包括支援センターや熊本市の協力も得ながら、認知症カフェを開催したり、地域行事に場所を提供するなどの工夫を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて	居室は施錠せず入居者が自由に出入りできるようにしている。玄関も日中は施錠していない。また月に1度はお買い物へ行き、散歩したいとの希望があれば、その都度対応している。	身体拘束指針・マニュアルがあり、研修記録において身体拘束への取り組みや推進ポイント・留意点などの内部研修が行われていることが確認できました。また多くの職員が学習できるように、同じ課題を2回実施するなど、取り組みへの努力が見られます。	教育に関しては、年度初めに教育計画を立てて実施することで、職員の意識改革や認識が生まれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り、介護等を通じて、職員間で確認し合い、虐待への注意・防止に努め、入居者お一人お一人に寄り添った介護を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要に応じて対応・支援が出来るように、取組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を提示しながら、口頭で十分に説明を行い、不安点・疑問点がないか確認し、ご納得された上で契約を行っている。改定時には、文書にてお知らせしご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、日ごろからご家族のご意見・要望を伺うようにしている。毎月1回、生活状況報告書を作成し全家族へ送付している。年1回無記名でのアンケートを実施し、率直なご意見を伺い、施設運営に反映するように努めている。	昨年11月にアンケートが実施され、折り紙や絵を描くなどの希望や外出に連れて行ってほしい場所などを具体的に把握しています。	アンケート結果を介護計画書に活かして、個別ケアに取り組んで頂きたいところです。また家族の意見が聞ける家族会を作り上げられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見を取りまとめ、法人の経営会議に管理者が提案するようにしている。	ユニット会議がモニタリングに合わせて3～4月に1回、2ユニットのリーダーが集まるリーダー会議が月2回実施されています。その後、管理者が法人の運営会議に提案しています。「昼休みを、きちんととれるようにしてほしい」という職員の希望も叶えられました。	管理者は、できるだけ現場職員に意見を取り入れるように努力されています。勤務の関係上、困難な部分もあるようですが、母体施設と連携を取りながら職員の意見が反映できるよう継続していただきたいところです。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。 休日の希望を聞き、毎月のシフトに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から研修参加の希望がある際は、シフトを考慮している。採用時各マニュアルを用いて新人研修を行っている。必要時には都度、内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム管理者と、密に情報交換を行い、早急な入居希望者がおられる際は、他グループホームと協力しながら入居希望者へ空き情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅訪問や電話にて、本人・ご家族の思いを聞き取っている。事前に施設見学をして頂き、安心してご入居していただけるように心がけている。事前のアセスメントにて意向等の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問・契約時にはじっくりと時間をかけて、不安や要望を伺い、施設での生活について一緒に考えている。入居後は、こまめに電話連絡を行い、少しずつ信頼関係を築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族と面談し、他事業所やケアマネに助言をいただきながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等、本人が少しでも出来ることは一緒にに行い、共に暮らす場となるような関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ施設でのイベントへの参加を呼び掛けている。毎月ご家族へ生活状況報告書を送付し、少しでも変化があった際は連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年年賀状を出したり、馴染みの方々が訪問していただけるようお願いしている。母体施設へも足を運ぶ機会を作り、関係維持に努めている。	隣接する特養のディサービスを訪問し、旧友と交流を行っています。また元の画家や弟子が訪問し、思い出や好きな場所のデッサン指導なども行われています。	馴染みの習わし等を楽しむ支援として、季節行事もできています。今後は単年度計画・中期計画・長期計画を策定し、施設が成長する中でできることを考えて進めていかれることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席や活動は相性を考慮しながら支援している。常に職員から話題提供を行い、入居者同士の関係が深まるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族へ電話し、その後のご様子やご家族の状況などの把握に努めている。また契約終了したご家族へ施設でのイベント参加も呼び掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活スタイル、趣味嗜好等を伺いながら、お一人お一人の思いを汲めるように心がけている。家族からも情報収集を行い、一緒に考えていただくようにしている。	職員は日頃のかかわりの中で、本人の希望や思いを言葉だけでなく、しぐさや独特のサイン・動作から情報を集めています。	もう少し詳しく入居前の生活(元気なころの趣味や仕事内容、幼少期の思い出等)を把握し、その人らしさを見つけていただくような工夫ができる事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人・家族・今までの関係事業所から既往歴・生活歴等の確認を行っている。入居後は日々のふれあいの中で知り得た情報を職員間で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄チェック表を用いて、サイクルの把握に努めている。職員間の申し送りは口頭と連絡帳で行い、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとにモニタリングを行い、都度サービスの見直しを行っている。六ヶ月ごとにアセスメントを見直し、本人・家族の意向・要望を伺い、介護計画に反映している。	3ヶ月・6カ月の見直しはきちんと行えています。また介護計画も個々に策定されています。アセスメントシートの「本人の思いや意見」を記入しなければいけない欄がADL・IADL・認知の状況を書く備考欄になっています。援助内容と問題点のずれも気になるところです	スタッフの記録力や表現力に差が見られます。アセスメントやモニタリングに直結するものですから、内容をきちんと書けるような指導が求められます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の訴えや行動等を毎日個別に記録し、排泄・食事摂取・体重表等の記録を活用し、職員間で情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体施設で行われている、イベントへ参加しているが、多機能化への取り組みは十分とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・民生委員から話を伺い、この地域の把握に努めて、地域資源を活用できるように取り組んでいく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご家族の意向をもとに選定していただいている。多くの方が協力医療機関での訪問診療を利用されている。それ以外の方は家族による通院支援をされているが、難しい場合は、管理者が通院支援を行い、その	家族だけでなく、管理者がかかりつけ医への受診の送迎を行っています。また訪問歯科のブラッシング指導も行われており、歯科医師や歯科衛生士による講習も実施されています。	施設が成長するに従い、現入居者の状態も変化してくると思われます。認知症に関する診断や治療、対応方法等について指示や助言をもらえる専門医の確保は個々に必要だと考えます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護と連携を図り、週3回来設され日々の健康管理や24時間体制で連携を図り、健康管理に努めている。薬については調剤薬局と連携を図り管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には病院関係者へ詳しく状態等を報告している。度々入院先の医療機関を訪問し、本人への面会及び病院関係者と情報交換を行っている。退院時はお迎えに行き、医師・看護師から退院後の生活についてアドバイス等をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と相談しながら、重度化・終末期に対応できる体制を整えたい。	業務委託先の訪問看護と連携して、24時間オンコール体制が整っています。	施設ではまだ看取りを行っていないようなので、看取りケアに関する研修を含めて、今後の体制づくりに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・フローチャートを作成し、職員がすぐに確認できる場所に備え付けている。夜勤をする職員を中心に急変等に備えた勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員や防災設備機器の会社より指導を受け、日中と夜間を想定して避難訓練・通報訓練を実施している。訓練には家族・民生委員も見学に来られ、ご意見をいただいている。災害に備えて食料・飲料水を倉庫に備蓄している。	消防法に規定された火災訓練が年2回実施されており、緊急連絡網もあります。また同法人下の特養に食料や飲料水が備蓄してあります。	施設の両岸に川や用水路があります。また熊本地震では、近隣の施設でも多くの被害を受けています。火災訓練だけでなく、地震や水害に対する避難訓練を実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の写真を使用する際は、ご家族に説明し同意書をいただいている。職員の言動がふさわしくない際は、その都度管理者より注意している。また職員同士でも言動がふさわしくない場合は注意しあっている。	重要事項説明書にプライバシーの保護が明記されています。またユニット内に掲示してある写真に氏名を入れない、離床センサーもできるだけ他者に見えないような工夫も見られます。	トイレのカギが壊れている箇所があるので、早急な修繕が望まれます。またユニットによっては、居室のドアが全開になっているので検討を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で何か行う際には、ご本人の意思を伺うように努めている。自己決定が難しい方に関しては、生活の中での表情や態度を観察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の意思を大切に、その時の気分や状態に合わせて支援するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服をご家族に持ってきていただいている。自分で洋服を選べる方もいらっしゃるが出来ない方は職員が対応している。月に2回美容師が訪問されており、整髪出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が献立を立てて、栄養バランスに考慮した食事を提供している。嚥下・咀嚼状態に応じて、硬さ・大きさ等、お一人ずつ配慮している。	常食のごはんはGHで炊き、隣接する特養から栄養管理された食事を運び、ユニット内で配膳が実施されています。おやつも個別の状況に合わせたものが提供されています。摂食量はタブレットで入力し、献立表は家族に郵送しています。	食は生活の楽しみの一つであることから、献立は職員が口頭で献立を伝えるだけでなく、掲示も必要ではないでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量を記録している。個々人に合った食事形態で提供している。食事時間以外にも随時水分提供・声かけをしている。毎月体重測定を行っており、変動がある方は主治医へ相談し、家族へ連絡している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施し必要に応じて一緒に行っている。口内に異常がある際は、歯科医師へ依頼し、治療を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、各人の排泄パターンを把握し、オムツ使用者も出来る限りトイレでの排泄を行い、パット等の使用を減らすように支援している。本人の尊厳に留意しながら、自分で出来る所は自分で行うようにしている。	昼間はできるだけおむつを外すために、リハビリパンツプラス尿取りパットでトイレ誘導に努めています。また排泄状況はタブレットに入力しています。	認知症の症状で、夜間に居室に入れられないような方もおられるようですが、日々の努力で改善の方向に向かっていくようです。職員1人1人の努力と継続を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時を含めこまめに水分補給を促し、体操を取り入れる等、日中の活動量を増やすように支援している。主治医・訪問看護と連携し、状態に応じて服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴されている。毎回お一人ずつお湯を入れ替えている。拒否がある方には、時間を変えて声掛けしたり、声掛けの仕方を工夫している。	週2回午後からの時間をとり、1日2~3名程度が入浴を楽しんでおられます。	希望の入浴時間や回数を利用者本位で検討されることを期待します。また入居して間がない方などは、入浴日の設定が難しいところもありますが、身体の清潔保持や整容のためにも、週2回程度は入浴を希望したいところです。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく離床を促しているが、本人の体調や希望に応じて、日中でも休息が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに処方箋をファイルしており、都度確認している。服薬チェック表を用い、誤薬防止に努めている。薬は主治医・訪問看護・調剤薬局と連携し、症状に変化があればその都度報告し、医師より指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・食器拭き、散歩等、入居者が自分のペースでゆっくりと過ごせる環境を提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	気候が良い日は近隣の公園へドライブへ出かけたり、スーパーでのお買い物、地域行事への参加も実施している。散歩を希望される方には、可能な限り屋外散歩を実施している。	ドライブや買物以外にも、ベランダでの景色眺望などを行っています。	入居者の地域での生活の支援を行うためにも、玄関先のベンチを利用したひなたぼっこや外出ボランティア、家族会、福祉タクシー等を活用した外出支援を期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の機会を設けて、支払いが出来る方は自分で支払っていただき、お金に対する意識が持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から家族へ年賀状を出している。電話は本人から希望があった際、家族へ電話をかけていただいている(職員が番号を押している)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に配慮し、各ユニットへ温湿度計を置き、常に確認している。抗菌・消臭効果がある次亜水を使用することでインフルエンザ罹患者は出していない。窓越しから見える風景は季節感があり、心地よくゆったりと過ごせるように配慮している。	スーパー次亜水が玄関・ロビーに設置しており、24時間換気システムで清潔な空間管理が行われています。またマスク、消毒液の設置など感染予防策があるだけでなく、お月見やハロウインの壁面飾りをロビーに飾るなど季節感に配慮した空間づくりもできています。	建築して間がないこともあり、快適な共有空間となっています。今後は入居者の介護度が上がるにつれ、その状況にあった空間づくりができることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士、ソファーに座り談笑されている。気候が良い日はペランダに椅子を置き、ゆっくりとくつろいで過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染んだ家具や家族との写真を持ち込んでいただき、本人にとって居心地のよい空間となるように支援している。	居室にはこれまでの生活になじんできた神社のお札やファミリースナップがあります。また福祉用具(多点杖・車いす・介助バー・センサー)も、個々の状態にあった物が選択されています。	認知症の状況は人それぞれですが、“居心地よく過ごせる居室”として考えた場合、再考しなければならぬ居室もあるようです。スタッフ間でよく話し合っ、取り組むことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からホールまでバリアフリーとなっている。ホールやトイレには手すりを設置して安全面に配慮している。入浴時、足が不自由な方のために、バスリフトを導入している。		